

宗教学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村 敏明	3	金曜3限
宗教学概論	日本宗教の近現代	2	問芝 志保	4	水曜2限
宗教学基礎講読	「講」研究の可能性	2	阿部 友紀	3	水曜2限
宗教学基礎講読	未定	2	庄司 一平	4	火曜2限
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明	3	金曜5限
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明	4	金曜5限
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明	3	月曜4限 月曜5限
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明	4	月曜4限 月曜5限
宗教学各論	宗教社会学	2	問芝 志保	5	火曜3限
宗教学各論	災害と宗教	2	木村 敏明	6	金曜3限
死生学各論	死生学の諸問題	2	高橋 原	5	水曜5限
死生学各論	宗教と心理療法	2	高橋 原	6	水曜3限
死生学各論	死とともに生きることを学ぶ	2	竹之内 裕文	5	集中講義
実践宗教学各論	死生学文献講読	2	高橋 原	5	水曜3限
実践宗教学各論	スピリチュアルケア	2	谷山 洋三	5	金曜4限
実践宗教学各論	実践宗教学試論~宗教者によるケア実践	2	高橋 原	6	水曜5限

宗教学

実践宗教学各論	宗教的ケア	2	谷山 洋三	6	金曜4限
宗教学講読	未定	2	ANDREWS DALE	5	火曜1限
宗教学講読	未定	2	ANDREWS DALE	6	火曜1限
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明	5	金曜5限
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明	6	金曜5限
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明	5	月曜4限 月曜5限
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明	6	月曜4限 月曜5限

科目名：宗教学概論

曜日・講時：金曜3限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明

コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教と現代社会

2. 授業の目的と概要：この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。

3. 学習の到達目標：現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。
宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. . 宗教を定義/脱定義する 聖なるもの
3. 宗教を定義/脱定義する 儀礼
4. 宗教を定義/脱定義する 宗教集団
5. 小括
6. 現代宗教の基礎理論 世俗化
7. 現代宗教の基礎理論 公共宗教
8. 現代宗教の基礎理論 民間信仰
9. 小括
10. 宗教と政治
11. 宗教と経済
12. 宗教と教育
13. 宗教と移民
14. 宗教と科学
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のレポート[60%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015年）をあげておく。

7. 授業時間外学習：日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学概論

曜日・講時：水曜 2 限

semester：4 単位数：2.00 単位

担当教員：問芝 志保

コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本宗教の近現代

2. 授業の目的と概要：近代・現代日本社会における宗教現象の変容過程を論じるとともに、日本の宗教学・宗教社会学の歴史と学説・理論の展開を紹介する。

3. 学習の到達目標：宗教学・宗教社会学の基礎的知識および基本的な概念を学ぶ。日本人・日本社会にとって宗教とは何かを考察する視点を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

教員が講義する。ミニットペーパーに記された質問や疑問については、可能な限り次回の授業開始時に回答する。

- (1) イントロダクション
- (2) 「日本の宗教」をいかにとらえるか
- (3) 幕末維新期の民衆宗教
- (4) 明治期の日本型政教関係
- (5) 日本における宗教学の創始
- (6) 近代日本と仏教・キリスト教・新宗教
- (7) 戦争と宗教
- (8) 戦後日本の宗教政策
- (9) 都市化と宗教浮動人口
- (10) 高度経済成長期の新宗教
- (11) オウム事件と宗教・宗教学
- (12) スピリチュアルブーム・パワースポットブーム
- (13) 震災と宗教・宗教学
- (14) 人口減少・高齢多死・グローバル時代の宗教
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、わからない事項があった場合は事典等で調べる。

授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎講読

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：阿部 友紀

コード：LB35303, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：「講」研究の可能性

2・授業の目的と概要：この講義では、信仰的な社会集団である“講”を事例に、人々の繋がりと宗教がどのように結びついて
いるか議論する。

3. 学習の到達目標：受講生は信仰的な講集団の概要を理解する。特に人々と信仰との繋がりが、どのような社会集団を形成する
か理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

長谷部八朗監修・講研究会編集委員会編（2022）『人のつながりの歴史・民俗・宗教—「講」の文化論—』八千代出版をテキストとする。担当者は各章および提示する補足資料のレジュメを作成・発表する。参加者はそのレジュメを元に議論を進める。

1. 授業の進め方
2. 地域を支える講集団
3. 女性のつきあい
4. 助け合いの組織
5. 村落構造と「講」
6. 講集団の再編と存続
7. 布教を支える集団
8. 寺社の活動と代参
9. 近代宗教政策による変容と再編
10. 「在俗」の宗教者
11. 生業の信仰と「講」の位置づけ
12. 芸能をめぐる講
13. 「講」を迎える人々
14. 講とは何か？
15. 予備日

5. 成績評価方法：学期末レポート（講義内容に関連のあるテーマを自由に設定して論じる、80%）および毎回のレスポンスシート（出席確認を兼ねる。および授業参加度 20%）により評価する。

6. 教科書および参考書：長谷部八朗監修・講研究会編集委員会編（2022）『人のつながりの歴史・民俗・宗教—「講」の文化論—』八千代出版をテキストとして使用する。

授業までに用意しておくこと。

補足資料を授業時に提示する。

7. 授業時間外学習：レジュメ、レポート作成に向けて文献・資料の読み込みを行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

ディスカッションへの積極的な参加を期待します。

科目名：宗教学基礎演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、高橋 原、間芝 志保

コード：LB35501, **科目ナンバリング：**LHM-RES203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2. 学部3年発表 1グループ
3. 学部3年発表 2グループ
4. 学部3年発表 3グループ
5. 学部3年発表 4グループ
6. 学部3年発表 5グループ
7. 学部3年発表 6グループ
8. 予備日：学部3年欠席者のため
9. 学部4年発表 グループ1
10. 学部4年発表 グループ2
11. 学部4年発表 グループ3
12. 学部4年発表 グループ4
13. 学部4年発表 グループ5
14. 学部4年発表 グループ6
15. 予備日：学部4年欠席者のため

5. 成績評価方法：発表および討論への参加（授業後のコメントを含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三

コード：LB45501, **科目ナンバリング：**LHM-RES203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部3年発表 グループ1
3. 学部3年発表 グループ2
4. 学部3年発表 グループ3
5. 学部3年発表 グループ4
6. 学部3年発表 グループ5
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 グループ1
9. 学部4年発表 グループ2
10. 学部4年発表 グループ3
11. 学部4年発表 グループ4
12. 学部4年発表 グループ5
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 グループ1
15. 学部2年発表 グループ2

5. 成績評価方法：発表および討論への参加。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎実習

曜日・講時：月曜4限、月曜5限

セメスター：3 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀

コード：LB31405, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタビュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎実習

曜日・講時：月曜 4 限、月曜 5 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、問芝 志保、阿部 友紀

コード：LB41402， 科目ナンバリング：LHM-RES204J， 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学各論

曜日・講時：火曜3限

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：間芝 志保

コード：LB52302, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教社会学

2・授業の目的と概要：「宗教と氏名（姓名）」をテーマとし、関連する書籍、論文を講読する。歴史的変容、現代の意識、宗教や占いととの関連について学び、ディスカッションする予定。

3. 学習の到達目標：「宗教と社会」という問題をとらえるための視座を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ・各回1名の受講者が報告を担当する。報告者は課題論文を熟読し、要約したレジюмеを作成し、報告を行う。
- ・誰がいつ何を報告するかは初回授業の際に決定する。報告者になることを希望する者は初回授業に出席すること（どうしても出席できない場合は応相談）。
- ・報告者にならなかった者の成績評価は期末レポートの提出によって行う。

- (1) イントロダクション
- (2) 概説①
- (3) 概説②
- (4) 日本における氏名の歴史①
- (5) 日本における氏名の歴史②
- (6) 日本における氏名の歴史③
- (7) 日本における氏名の歴史④
- (8) 宗教と氏名①
- (9) 宗教と氏名②
- (10) 宗教と氏名③
- (11) 姓名判断とは何か①
- (12) 姓名判断とは何か②
- (13) 現代における名前の意義①
- (14) 現代における名前の意義②
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：レジюмеによる報告 もしくは 期末レポートの提出による。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：課題論文を熟読し、わからない事項は事典等で調べておく。授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学各論

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明

コード：LB65301, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：災害と宗教

2・授業の目的と概要：突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、宗教的儀礼、復興と宗教といったトピックについて、教員による講義と論文をもとにした議論によって問題の理解を深める

3. 学習の到達目標：宗教学的なものの見方を身につけることができる。
現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨン ①何故災害と宗教か
2. インTRODクシヨン ②発表準備
3. 災害観と宗教（講義）
4. 災害観と宗教（論文講読と議論）
5. 災害観と宗教（論文講読と議論）
6. 災害と儀礼（講義）
7. 災害と儀礼（論文講読と議論）
8. 災害と儀礼（論文講読と議論）
9. 宗教と復興（講義）
10. 宗教と復興（論文講読と議論）
11. 宗教と復興（論文講読と議論）
12. 宗教と死者（講義）
13. 宗教と死者（論文講読と議論）
14. 宗教と死者（論文講読と議論）
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表と、授業後提出のコメントで評価をする。

6. 教科書および参考書：教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：使用文献の精読および発表の準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学各論

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死生学の諸問題

2. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。

3. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定テキスト(参考書)のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。

- (1) 死生学とは何か
- (2) 死生観と宗教
- (3) 日本人の死生観
- (4) 喪と追悼
- (5) 死生観一國と地域の視点から
- (6) マスメディアで死生について考える
- (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
- (8) 老いと死
- (9) 病い経験と「生」
- (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
- (11) 自己決定権
- (12) ターミナルケア
- (13) 自殺予防
- (14) 尊厳死
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：(参考書)

石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014

石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学各論

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教と心理療法

2. 授業の目的と概要：宗教儀礼がもたらす癒しと健康について心理学的観点から理解する。

3. 学習の到達目標：宗教とは何かという大きな問題を、人間の心に及ぼす影響という点から理解し、説明できるようにする。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション～心理療法について
- 2 健康の定義について
- 3 『無意識の発見』より～原始的心理療法
- 4 『無意識の発見』より～メスメリズムと催眠術
- 5 『無意識の発見』より～精神分析
- 6 悪魔祓(エクソシズム)
- 7 被災地の心霊現象
- 8 『野の医者は笑う』より～まぶい分析学
- 9 『野の医者は笑う』より～カウンセラーと宗教者
- 10 『病いの語り』より
- 11 事例研究 1 移民のメンタルヘルス
- 12 事例研究 2 行と心理療法
- 13 事例研究 3 内観療法
- 14 事例研究 4
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーと期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：竹之内 裕文

コード：LB98808, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2・授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

3. 学習の到達目標：1 対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

2 テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章~終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス:講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話1 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話2 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話3 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話4 いのちに気づかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話5 共に生きること、本当に生きること(第5章)
- 9)10)11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク
- 12) テキストをめぐる対話6 森と湖の国の「福祉」(第6章)
- 13) テキストをめぐる対話7 ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
- 14) テキストをめぐる対話8 死とともに生きることを学ぶ~哲学と対話(終章) 15) 授業全体のふり返り

5. 成績評価方法：ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

6. 教科書および参考書：講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

7. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれません。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話=本番という考え方を共有してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次のURLを参照ください。<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：水曜 3 限

Semester : 5 単位数 : 2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB53301, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死生学文献講読

2. 授業の目的と概要：死生観に関する英語文献を読み、生と死の諸問題についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：生と死の諸問題についての知識を自分の問題関心につなげる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

The Routledge Handbook of Death and Afterlife (Edited by Candi K. Cann, Routledge, 2018) をチャプターごとに読み進める。テキストの購入は必要ない。

学生は以下に示す目次から、毎回一章を選んで要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

- Part I|39 pages The study of dying, death, and grief
Chapter 1|7 pages, Introduction By Candi K. Cann
Chapter 2|10 pages, State of the field of death in the United States By George E. Dickinson
Chapter 3|10 pages, Brain death and the politics of religion By Donald Joralemon
Part II|80 pages Disposal of the dead
Chapter 4|10 pages, Understanding grief
Theoretical perspectives 1 By Kenneth J. Doka
Chapter 5|17 pages, Symbolizing imperial affiliation in death
Case studies from the Inka empire (ad 1400-1532) By Colleen Zori
Chapter 6|12 pages, The Romanian Orthodox Church and issues of cremation 1 By Marius Rotar
Chapter 7|13 pages, Reframing sites of the dead in Brazil By Renato Cymbalist a, Aline Silva Santos
Chapter 8|11 pages, Stand By me The fear of solitary death and the need for social bonds in contemporary Japan
By Chikako Ozawa-de Silva
Chapter 9|14 pages, Politics of death and mortuary rituals in Trinidadian Hinduism By Priyanka Ramlakhan
Chapter 10|11 pages, The right to be dead
Designing Future Cemeteries
By Jakob Borrits Sabra, John Troyer
Part III|71 pages
Representations of death
Chapter 11|13 pages, Post Mortem (2010)
Saint Salvador Allende and historical autopsy By Moisés Park
Chapter 12|17 pages, Mourning deaths and constructing afterlives in the Red Army at war By Steven G. Jug
Chapter 13|15 pages, Corpses that preach
Óscar Romero and the martyred priests of El Salvador By Mandy Rodgers-Gates
Chapter 14|15 pages, Photographing human finitude
Philosophical reflections on photographs of death By Mathew A. Crawford
Chapter 15|9 pages, De imago to word
The exile of the dead from parish symbolism in Reformation England By Lacy K. Crocker Papadakis
Part IV|36 pages Youth meets death
Chapter 16|13 pages, The comprehension of death and afterlife in children By Ramiro Tau
Chapter 17|11 pages, The effects of parental death on religiosity within an American context By Renae Wilkinson
Chapter 18|10 pages, Ashes to ashes
Continuing bonds in young adulthood in the Netherlands By Renske Visser
Chapter 19|9 pages, Exeunt
The question of suicide at the origin of early Christianity By Michael J. Thate
Chapter 20|22 pages, How not to become a ghost
Tales of female suicide martyrs in sixteenth-century Vietnamese ‘transmissions of marvels’ (truyện kỳ) By Cuong T. Mai
Chapter 21|15 pages, The cat came back’ Revenant pets and the paranormal everyday By Sara Knox
Chapter 22|14 pages, From ancestors to avatars from ancestors to avatars
Transfiguring the afterlife By Jenny Huberman
Part VI|102 pages Material corpses and imagined afterlives around the world
Chapter 23|9 pages, From the underworld of yama to the island of Gems
Concepts of afterlife in Hinduism By June McDaniel
Chapter 24|13 pages, A broad survey of zulu ancestor veneration and the challenges it faces zulu ancestor

vention, its challenges By Radikobo Ntsimane

Chapter 25|12 pages, Death and life in a pluralistic society death and life in a pluralistic society

Boundary-making and boundary-crossing in Sino-Burmese-Tibetan borderlands

By Keping Wu

Chapter 26|15 pages, Viking death

Pre-Christian rites of passage and funerary feasting By Davide M. Zori

Chapter 27|14 pages, Death, resurrection, and the world to come death, resurrection, and the world to come

Jewish views on death and the afterlife By Nicholas R. Werse

Chapter 28|10 pages, The afterlife and deathan islamic perspective

An Islamic perspective By David Oualaalou

Chapter 29|11 pages, Coffins, candles, and cameras aspects of brazilian funerals

Aspects of Brazilian funerals from the nineteenth to the twenty-first century By Andréia de Sousa Martins

Chapter 30|16 pages, Buying an afterlife buying an afterlife

Mapping religious beliefs through consumer death goods 1 By Candi K. Cann

下記サイトを参照

<https://www.taylorfrancis.com/books/edit/10.4324/9781315545349/routledge-handbook-death-afterlife-candi-cann>

5. **成績評価方法**：出席回数と発表内容により総合に評価する。
6. **教科書および参考書**：The Routledge Handbook of Death and Afterlife, edited by Candi K. Cann, Routledge, 2018
7. **授業時間外学習**：事前にテキストを読んでおく。
8. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
9. **その他**：
授業の進め方については、初回に出席者と相談して決めます。

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：金曜 4 限

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：谷山 洋三

コード：LB55401, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア

2・授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

3. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：チャプレンとビハーラ僧
- 第3回：「臨床宗教師」の誕生
- 第4回：生活の中にある心のケア
- 第5回：スピリチュアルペイン
- 第6回：スピリチュアルな探求
- 第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
- 第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
- 第9回：宗教的資源の活用
- 第10回：宗教的ケア
- 第11回：臨床宗教師の可能性
- 第12回：臨床宗教師の資質
- 第13回：ワークショップ「死の体験」
- 第14回：ワークショップ振り返り
- 第15回：まとめ

5. 成績評価方法：授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

6. 教科書および参考書：教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
該当する

9. その他：

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：水曜 5 限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB63501, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：実践宗教学試論~宗教者によるケア実践

2. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について現場経験から学ぶ。

3. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、宗教文化が死に直面した人々のケアに寄与してきたことを理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者(臨床宗教師)を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第、掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師とは何か？(1)
2. 臨床宗教師とは何か？(2)
3. カフェ・デ・モンク(宗教者による被災地支援の実情)
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：金曜 4 限

semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：谷山 洋三

コード：LB65401, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教的ケア

2・授業の目的と概要：「宗教的ケア」をテーマに、様々な宗教者、臨床宗教師、スピリチュアルケア師、医療従事者などの臨床の在り方について議論する。スピリチュアルケアの視点から、主として公共空間における宗教性をケアに用いることの意義や、効果についても検討したい。毎回テーマに関する雑誌論文等を指定し、演習形式で授業を進める。

3. 学習の到達目標：公共空間における宗教的ケアについて、その宗教的意義と、ケアとしての意義の両方の側面から検討し、理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：山本佳世子ら「宗教系病院における死亡した非信者患者及びその家族への宗教者によるケア」

第3回：山田和夫「精神科医療におけるスピリチュアルケアについて」

第4回：中島修平「がん在宅緩和医療における安らかな看取りのためのスピリチュアルケア」

第5回：野田康弘「チャプレン研修から学んだ緩和医療におけるキリスト教のあり方」

第6回：小括（スピリチュアルケアの宗教性）

第7回：村田久行「終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア」

第8回：小西達也「終末期スピリチュアルケアの三つの〈あいだ〉」

第9回：田中英明ら「東洋と西洋の医療従事者のスピリチュアリティ等に対する認識の比較」

第10回：小括（医療と宗教的ケア・スピリチュアルケア）

第11回：細谷幸子「イランのスピリチュアルケアの現状」

第12回：中川吉晴「G. R. A. C. E. におけるスピリチュアルケア」

第13回：斉藤仙邦「梵天勧請についての一考察」

第14回：伊藤高章「『スピリチュアリティの定義』をめぐって」

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：発表[50%]、授業への取り組み[25%]、出席[25%]

6. 教科書および参考書：参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
該当する

9. その他：

科目名：宗教学演習

曜日・講時：金曜 5 限

Semester：5 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、高橋 原、間芝 志保

コード：LB55502, **科目ナンバリング：**LHM-RES304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2. 学部3年発表 1グループ
3. 学部3年発表 2グループ
4. 学部3年発表 3グループ
5. 学部3年発表 4グループ
6. 学部3年発表 5グループ
7. 学部3年発表 6グループ
8. 予備日：学部3年欠席者のため
9. 学部4年発表 グループ1
10. 学部4年発表 グループ2
11. 学部4年発表 グループ3
12. 学部4年発表 グループ4
13. 学部4年発表 グループ5
14. 学部4年発表 グループ6
15. 予備日：学部4年欠席者のため

5. 成績評価方法：発表および討論への参加（授業後のコメントを含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学演習

曜日・講時：金曜 5 限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、高橋 原、間芝 志保

コード：LB65501, **科目ナンバリング：**LHM-RES304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部3年発表 グループ1
3. 学部3年発表 グループ2
4. 学部3年発表 グループ3
5. 学部3年発表 グループ4
6. 学部3年発表 グループ5
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 グループ1
9. 学部4年発表 グループ2
10. 学部4年発表 グループ3
11. 学部4年発表 グループ4
12. 学部4年発表 グループ5
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 グループ1
15. 学部2年発表 グループ2

5. 成績評価方法：発表および討論への参加（授業後のコメントを含む）。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学実習

曜日・講時：月曜 4 限、月曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、阿部 友紀、問芝 志保

コード：LB51405, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：民間信仰の基礎 社会組織と講
3. 第二回：民間信仰の基礎 年中行事①
4. 第三回：民間信仰の基礎 年中行事②
5. 第四回：民間信仰の基礎 人生儀礼①
6. 第五回：民間信仰の基礎 人生儀礼②
7. 第六回：民間信仰の基礎 神社と寺院
8. 第七回：民間信仰の基礎 民話と伝説
9. 第八回：民間信仰の基礎 民間信仰の現在
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学実習

曜日・講時：月曜4限、月曜5限

Semester：6 単位数：2.00 単位

担当教員：木村 敏明、谷山 洋三、阿部 友紀、問芝 志保

コード：LB61405, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：